

私の仕事観

# 為すことによる

四木 信 / OWL仕事図書室主宰

「自分はいったい何をしたらいいのか、何をすべきなのか」と考え・迷い・悩んでいる若者が多い。私も20歳前後の5年間、この悩みの壁にぶつかっていました。自分の人生のことですから自分が適当にするわけにはいかない、20歳の成人として先送りするわけにはいかなかったからです。昔から「生きるとは、呼吸にあらず、為すことなり」といった言葉をよく聞きます。その通りだと思うからこそ、「何を為すべきか」さらに「“為すこと”としての“仕事”はいかにあるべきか」「自分が納得できる、責任を持てる仕事とは、いかなるものなのか」の問いを離れて生きることができなかつたのです。

「オレはこれからいったい何をしようとしているのか。」

「オレはこれからいったいどんな仕事をしようとしているのか。」

「オレはこれからいったいどんな世界で何を考えて生きようとしているのか。」

それを決めないと、生きてゆけない。しかし、決めることができない。

「オレは何ができるのか。」「何もできない。」

「オレはいったい何なのか。」「何も無い。」

「オレの存在とは何なのか。」「いてもいなくてもいい。」

自分は何者かと問えば問うほど虚しくなる。

「今のオレの存在の価値はない。」「これからつくるしかない。」

「これからどんな自分をつくるのか。」「何をするのか。」

「これからどんな仕事をして生きてゆくのか。」「存在の意味をつくっていくのか。」

為すことによって、これから自らの存在意義をつくってゆくしかない。

自分に責任を持てる人生、打ち込める生き方・仕事をつくってゆくしかない。

「為すこと」と「在ること」

「為すことによって在る」 それは私の人生の出発点だったのです。 そんなことあたりまえじゃないか、何をわかりきったことを、と他人はおっしゃるでしょう。しかし私は、「為す」ということ「在る」ということについて、18~19歳の時に初めて目覚めたというか、自覚できたのです。それ以来私にとって、「為すこと」と「在ること」が、生きる上で根本的なこと、最重要なテーマとなっているのです。考え、行動するときの出発点となっているのです。

価値あるテーマを持って生きようよ、仕事をしようよ。